

小型EV等の活用検討会

運行状況

(二人乗りEV 5台 NTNの主な使用状況)

- 1号車 伊勢市役所
- 2号車 伊勢商工会議所
- 3号車 伊勢市観光協会
- 4号車 伊勢旅館組合(伊勢戸田家)
- 5号車 三重県バス協会(三重交通伊勢営業所)

(一人乗りEV 4台 コムスの主な使用状況)

- 伊勢市駅前手荷物預所
- 外宮前観光案内所

(段階的な運行)

第1段階(～年内)

- 各車両使用者において日常業務等に使用
- 各車両使用者において、社内・団体内で展示会・試乗会
- 観光モデルコース等での試乗会(協議会メンバーを中心として)
- 市民や観光者向けの展示会や乗車体験会(後部座席等)

(伊勢市環境フェア、伊勢楽市等)

第2段階(平成26年～)

市民や観光者を対象とした、観光モデルコースを走る試乗体験会(モニターツアー)
超小型モビリティのカーシェアリングの検討



小型EV等の活用検討会
(NTN 5台、コムス 4台等)

1. EVシェアリングの目的・意義

(1) 遷宮を機に低炭素型の地域交通システムのモデルを構築

- ・公共性の高い交通システム・街づくりのインフラ（モビリティマネジメント）
= 地域のストレスのないスムーズな移動
公共交通機関利用との相乗効果（電車、バス・自転車・徒歩移動促進） など
- ・公共交通や徒歩・自転車を適切に利用するライフスタイルに変更
交通渋滞解消、地域移動性の向上・効率化
低炭素型観光・中心市街地活性化 など

(2) 地域ニーズに即した EV コミュータならではの「短距離短時間利用」

- ・地域の移動手段・車のニーズは多様化
環境意識の高まりとともにその時々目的に応じて「利用」するニーズ増
EV コミュータは環境共生型の短距離短時間利用に最適
（シェアリングは公共交通機関含め多様な移動手段選択肢の一つ）

2. おかげさま Action! 「小型 EV 伊勢まいり」

〔日本初 EV コミュータのシェアリング先進地域に〕

(1) 観光モデルコース（「小型 EV 伊勢まいり」でのシェアリング事業）

「モニターツアー」から伊勢ならではの EV シェアリング事業へ

(2) 地域シェアリング事業（地域の短距離短時間利用ニーズに対応した事業）

「買物・送迎・配送、高齢者・福祉、公用・社用・通勤、伊勢ならではの小道散策・チャイム乗」等地域の多様なニーズに対応した短距離移動 EV シェアリング事業へ
（低炭素型公共交通インフラ = 観光・商店街振興・高齢化・健康に優しい街づくりに）

3. 作業チームの計画案（2月から作業開始、来年度から試行・実施）

先行事例勉強、地元の短距離短時間利用ニーズ調査、駐車場拠点の精査

上記(1)観光モデルコース、(2)地域シェアリングに即した具体的運営方法、運営主体

EV シェアリングの支援策活用（国等の支援策）

（超小型モビリティの導入促進、環境共生型街づくり・交通システム・観光モデル等）

（メンバー案）

・商工観光

商工会議所、観光協会、旅館組合、商店街・観光・商業施設拠点

・公共交通

バス、鉄道

・行政・大学

三重県・伊勢市、大学

・協議会関連メンバー

旅行代理店、EV車両関係、シェアリング関係など

参考資料

1. カーシェアリング普及条件

- 人口密度がある程度高く公共交通機関が発達している地域
- 環境意識が高く近距離走行コースがある地域
- アクセス性（駐車場）

2. 先行事例

欧州：公共交通・環境イニシアチブ-政策推進・先行導入

- ・欧州は環境意識が高く、パーク&ライド等都心の交通を配慮した政策を早くから推進。とくにスイスは環境意識が高くシェアリングは1948年にチューリッヒで誕生。観光地ツェルマツト（マッターホルン山麓）では条例で市街地は「EV・馬車しか走れない」規制（山岳鉄道駅と連動）。EVバス+EV500台以上あり、送迎配送用EV導入、EVは地元町工場製。
- ・1980年からは地球温暖化・イニシアチブ-対策として公共機関を補うものとして積極的に導入（流入規制。イニシアチブ-政策の一環）。1988年に独ベルリン市は鉄道連動のシェアリング導入。
- ・EV大規模導入は2011年仏パリ首都圏で小型EVシェアリング「オートリブ」導入（自転車シェアリング「ヴェリブ」で成功体験）。シェアサービス・乗捨自由1200拠点、3000台、小型4人乗BlueCar（ボル社）、30分5ユーロ（会員20万人確保目標）。仏20都市（専用駐車場方式）でシェアリング普及。スウェーデン市では公共交通機関が利用できる連結車両型シェアリング含めEVプロジェクト推進中。ドイツ（Smart）、PSAも欧州でシェアリング参画。
- ・公共交通政策の一環として地域の自治体・産学連携で、駐車場は行政が確保・提供。

米国：民間主導型 Zipcar がシェアリング普及

- ・2000年大学からスタート、ワシントン、デトロイト、サンフランシスコ等大都市で普及。
- ・公用車のシェアリング普及（NY州・ジップカー提携）。EV先進事例は？

日本：自治体 EV 実証事業で開始（創生期）

- ・昨年横浜市「チャイロEVカー」シェアリング開始（20円/分、100台規模）。豊田市低炭素社会システム実証プロジェクト「Ha:mo」。熊本・沖縄・さいたま市で超小型EV実証予定。
- ・北九州市等自治体の公用車シェアリング（市民貸出含）。福岡市高齢者コミュニティ移動手段。大阪EVアクションプログラムは都心部3箇所（咲洲地区EV、ワケイ利用実証）。都市部では大規模マンション向けEVシェアリング。ガソリンスタンド・市営駐車場活用型は鳥取EVシェアリング。
- ・鉄道バスとの連携、商店街活性化関連。金沢・小松市は北陸鉄道の電車バス利用のICカード乗車券と共通化（カーシェアリング会費をバス利用できるポイントに還元）。商店街買物にバス利用できるポイントシステム導入。
- ・世界遺産地域・観光の取組み：屋久島EV導入。なおUNESCO世界自然遺産地域ではEV導入推奨。富山県宇奈月温泉はツェルマツト型を目指し小水力等利用・EV100%温泉リゾートの取組み（2009年～自治体・富山国際大学）。離島地域は長崎・福岡・鹿児島・瀬戸内等近距離移動に最適であり公共交通交通機関（船着場・航路拠点）と連動。
（国土交通省超小型EV実証事例参照

<http://www.mlit.go.jp/common/000986238.pdf>